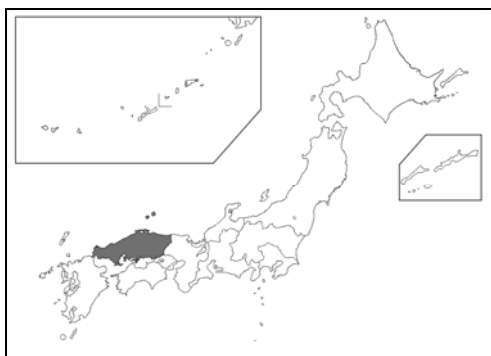


(8) 中 国



中国地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更) 。

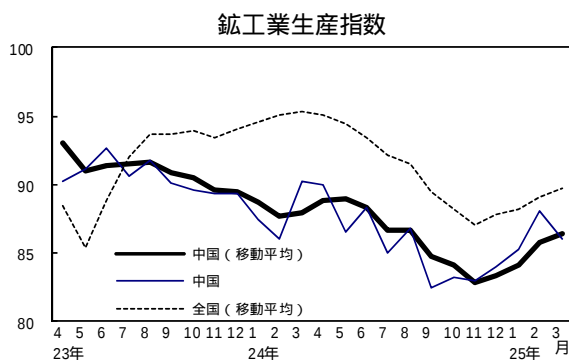
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 25 年 2 月)	今回 (平成 25 年 5 月)	
景況判断	下げ止まっている	緩やかに持ち直し	↑
鉱工業生産	下げ止まっている	緩やかに持ち直し	↑
個人消費	底堅く推移	持ち直し	↑
住宅建設	大幅に増加	減少	↓
雇用情勢	緩やかな持ち直しに足踏み	改善の動き	↑

1 . 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

1 ～ 3 月期には、鉄鋼は、設備メンテナンス終了の反動増があったこと等から増加した。化学は、工場の定期修理終了の反動増等から増加した。輸送機械は、新車効果や大型の船用ディーゼル機関が出たこと等から増加した。一般機械は、大型印刷機械の生産が一段落したことによる反動減等から減少した。電子部品・デバイスは、中国の春節による反動減等から減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10～12 月期	1～3 月期	1月	2月	3月
鉄鋼	16.5	▲ 3.1	4.4	7.3	▲ 1.4	▲ 4.4
化学	16.1	▲ 1.7	7.8	0.7	2.5	4.0
輸送機械	14.8	1.0	14.1	▲ 2.3	15.7	▲ 6.3
一般機械	10.7	▲10.2	▲ 6.5	5.5	▲ 0.4	▲10.5
電子部品・デバイス	7.3	4.5	▲ 3.8	1.5	▲ 5.0	▲ 5.8
鉱工業	100.0	▲ 1.7	3.7	1.5	3.3	▲ 2.4

(備考) 1 . 地域における付加価値ウェイトの高い 15 業種。

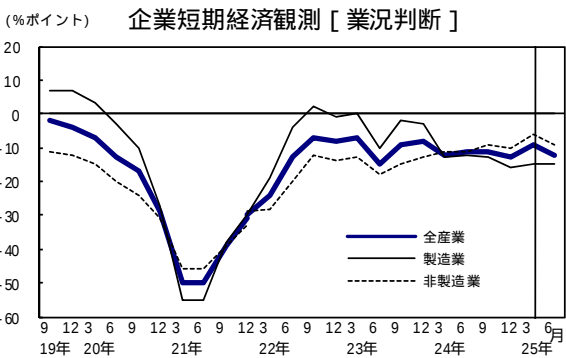
2 . 1 ～ 3 月期、3 月は速報値。

(備考) 1 . 17 年 = 100、季節調整値。中国の最新月は速報値。

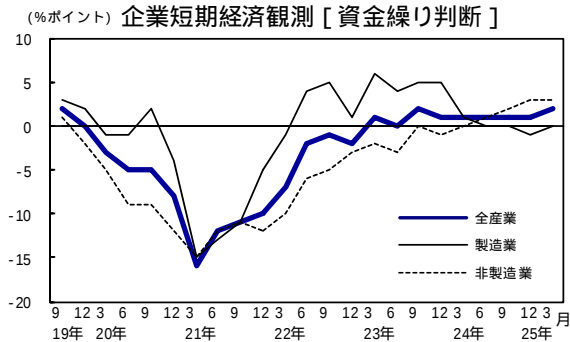
2 . 全国及び中国の太線は後方 3 か月移動平均。

(2) 業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

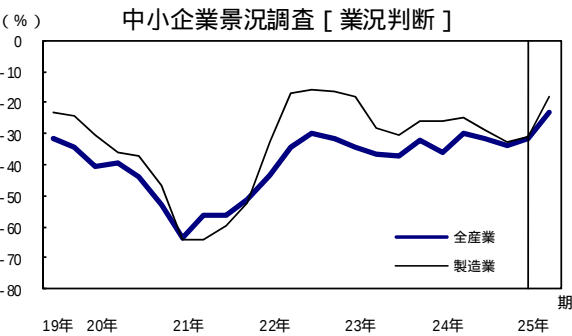
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年6月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。

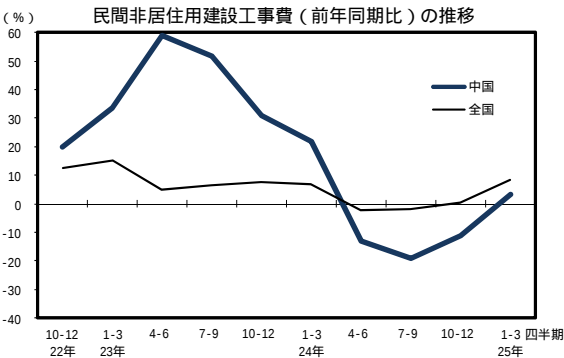


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「現在、フル生産の状況であり、現場からは人が足りないとの声も出始めている(非鉄金属製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)

	24年度実績見込み	25年度見込み
全産業	▲1.8(▲5.8)	▲6.7
製造業	2.0(▲4.1)	▲11.9
非製造業	▲7.5(▲8.5)	1.7

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比1.0%増、2月は同0.0%減、3月は同1.3%増となった。

大型小売店販売額

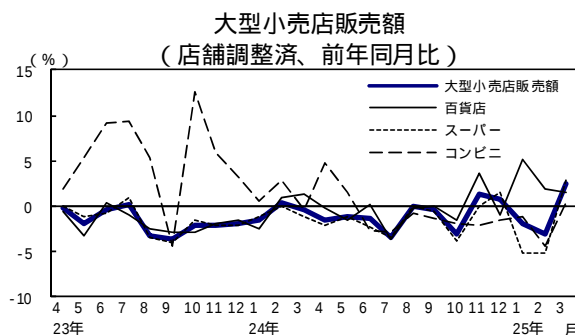
百貨店は、1月は、一部店舗の閉店セールにより身の回り品が好調だったこと等から前年を上回った。2月は、引き続き一部店舗の閉店セールにより身の回り品が好調だったことに加え、高額品も好調だったこと等から前年を上回った。3月は、一部高級ブランド品の値上げ前の駆け込みにより、身の回り品が好調だったこと等から前年を上回った。

スーパーは、飲食料品が不調だったこと等から、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

中国地域の家計動向関連DIは、54.4となり前月より3.5ポイント低下した。

「気温が上がらず春物の動きが鈍く、全体的に苦戦傾向が続いている(百貨店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

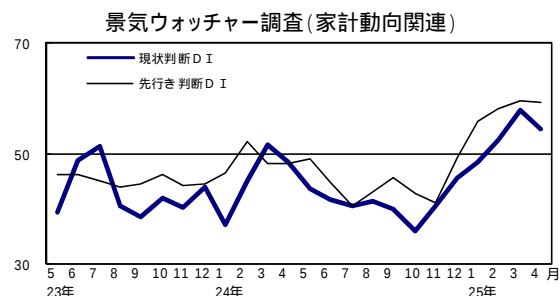
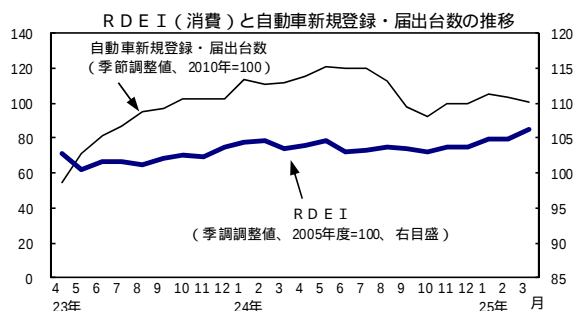


	25年1-3月	25年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	1.7	1.0	▲0.0	1.3
大型小売店(*2)	▲0.8	▲1.9	▲3.0	2.5
百貨店(*2)	3.1	5.2	1.9	1.6
スーパー(*2)	▲2.5	▲5.2	▲5.1	2.9
コンビニ(*2)	▲1.7	▲1.2	▲4.4	0.4
乗用車(*3)	▲8.5	▲5.5	▲7.7	▲10.8
(季節調整値)(*3)	6.3	5.6	▲1.5	▲2.7

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整済、前年同期(月)比(%)

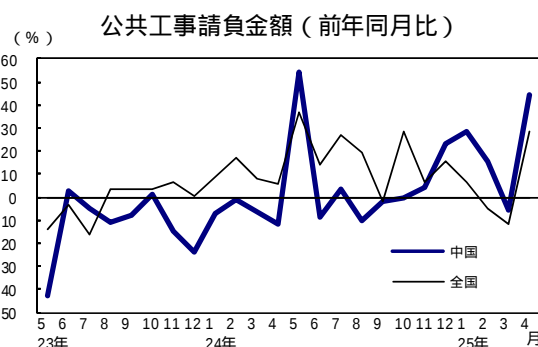
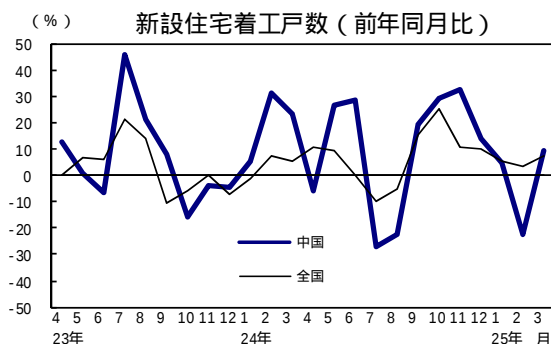
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は減少している。

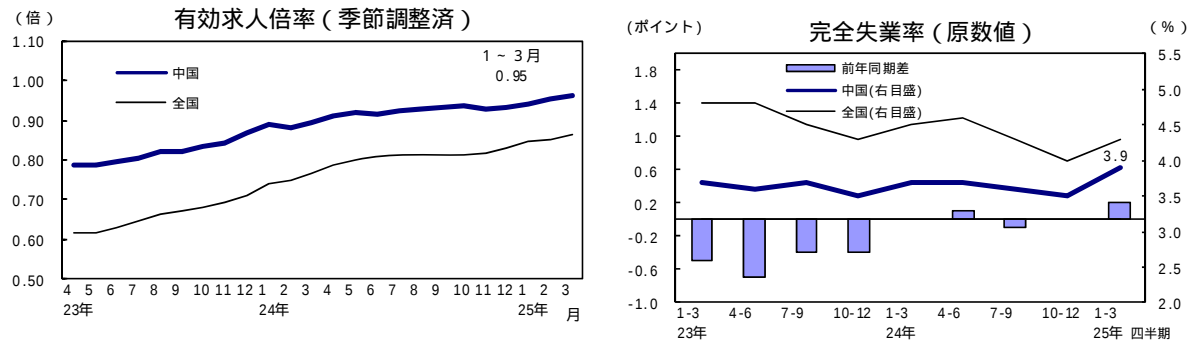
分譲が前年を上回ったものの、持家、貸家が前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は24年度累計でみると前年度とほぼ同水準となっている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は改善の動きがみられる。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。

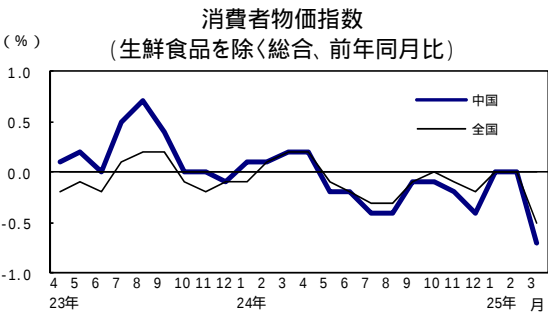


景気ウォッチャー調査 (4月)[雇用関連 (現状)]
「当地域の主要産業である自動車関連企業からの派遣依頼が増えてきた。6月に販売される新車の製造に関わる求人が増えつつある (人材派遣会社)」などの回答がみられた。

- (2) 企業倒産は、件数はおおむね横ばい、負債総額は増加している。
- (3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年4-6月	7-9月	10-12月	25年1-3月	25年4月
倒産件数	117	135	132	127	42
(前年比)	▲9.3	1.5	▲7.7	▲2.3	20.0
負債総額	242	196	234	265	36
(前年比)	▲67.6	▲3.2	48.0	34.7	▲38.9



- 景気ウォッチャー調査 (4月)[合計 (特徴的な判断理由)]
- <現状>
- 震災復興需要を背景に鉄鋼業が堅調な反面、材料不足・材料高になり、仕入れ価格に影響してくる気配がある。引き続き商談件数は増加傾向にあり、景気上向き傾向と判断している (電気機械器具製造業)。
- <先行き>
- 原価上昇の傾向が見受けられ、販売価格等への影響が懸念される (住宅販売会社)。

